INTERNATIONAL & INFORMATION STUDIES
新潟国際情報大学
Vol.112
国際・情報
学報
令和8年11月 発行

[本校]〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1
tel. 025-239-3111 fax. 025-239-3690
[新潟中央キャンパス]〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7-1169
tel. 025-227-7111 fax. 025-227-7117
https://www.nuis.ac.jp somu@nuis.ac.jp



貴重な現場を体験
インターンシップに参加して 2面

NUIS TOURISM PROJECT
「国際学会 ICoME 2026」で発表 8面

保護者向け 学修・就職説明会 4面

巻高等学校との高大連携事業 7面

「学生広報チーム」が始動 8面

編集部では表紙を飾る写真を募集しています! 投稿方法は nuischannel@nuis.ac.jp までお問い合わせください。

CONTENTS

2・3面
教員の活動
3面
しごと研究セミナー
将来の就職活動に備え
126名が参加
退職教員あいさつ
表彰奨学金授与式
4面
海外実習
カナダ留学体験記
ふるさと納税返礼品
開発プロジェクト
5面
課外活動
「こども食堂」支援ボランティア
日本語・日本文化研修
本学主催で初開催
―外国人12人が参加
クルーズ船通訳ボランティア
6面
第33回紅翔祭
第1回地域連携委員会講演会
ワイナリー・カーブドッチ
創業者迎え
セミナー開催
7面
令和8年度後期公開講座
8面
JCREES
スラブ・ユーラシア研究
サマースクール

NUISホームページ
https://www.nuis.ac.jp
（スマートフォン対応）

Facebookページ
https://www.facebook.com/nuis.face

Instagram

X（旧 Twitter）
@nuis_nabbit

YouTube
公式
チャンネル

グローバルネットコア



自己紹介サイト作りに取り組む佐藤さん

インターンシップに参加して…

業務を支える「連携力」を実感

情報システム学科 3年　佐藤 ひより

私は8月17日から5日間、（株）グローバルネットコアでのインターンシップに参加しました。インターンシップでは、Ｗｅｂシステム部とインフラサービス部の２つの部署で実習を行いました。

Ｗｅｂシステム部では、自己紹介サイト作りやシステムの変更作業、インフラサービス部では、ＡＷＳサーバーの構築やネットワーク機器の設定を体験しました。どちらの部署においても、大学で学んだ知識を実践的な業務と結び付けながら理解を深めることができ、非常に有意義な時間となりました。

実習を通して特に印象的だったことは、業務を進めるうえで部署内の情報共有が徹底されていたことです。社員の方々は作業内容や進捗状況をこまめに共有し、担当者同士で認識のずれがないかを確認しながら業務を進めていました。

また、問題や疑問が生じた際には周囲に相談しながら対応しており、一人で抱え込まずに協力して業務に取り組む姿勢が印象的でした。私自身も実習中、分からないことがあれば積極的に質問することを心掛けて理解を深めることができ、このような姿勢が円滑な業務遂行につながることを実感しました。

今回のインターンシップは、企業理解を深めるだけでなく、働くうえで求められる姿勢について考える貴重な機会となりました。今後は周囲とのコミュニケーションを心掛け、今回の学びや経験を大学生活や就職活動に生かしたいと考えています。

セコム上信越

多彩な仕事が支える「安全・安心」

国際文化学科 3年　佐藤　蓮

私は8月17日から5日間、新潟市内にあるセコム上信越（株）のインターンシップに参加しました。これまでセコムには、「警備をする会社」というイメージが強く、具体的にはよく知りませんでした。しかし、実際に参加してみると、私たちの安全・安心を守るために、さまざまなサービスや仕組みがあることが分かりました。普段生活している中にも、セコムの仕事が関わっていることを知り、とても興味深かったです。

いろいろな仕事の体験を通して、セキュリティの仕事には知識や技術だけでなく、周囲の状況をよく見て判断する力や、相手の立場に立って考えることの大切さを感じました。聞くだけでは分からない仕事の難しさや面白さも知ることができました。

印象に残ったのが、社員の方々の優しさです。質問すると丁寧に教えてくれて、気さくに接してくださいました。おかげで緊張することなく、楽しみながらさまざまな体験に取り組むことができ、実際に働いている方から直接お話を聞くこともできました。

インターンシップを通して、企業の仕事内容を知るだけでなく、働く人の姿や職場の雰囲気を実際に感じることができ、当たり前だと思っていた「安心できる生活」が、多くの人の仕事によって支えられていることを知ることができました。

この経験を、今後の進路を考える際にも生かし、さまざまな仕事に興味を持ち、自分がどのような仕事をしたいのか考えていきたいです。



セキュリティプランを
考案・提案するワークに取り組む
佐藤さん（左）

の意識構造」日本情報経営学会第90回全国大会（明治大学）（2026年9月4日～6日）
・「GPS連動型『謎解きまちあるき』の開発と地域活性化への応用―地域活性化、環境意識の変容、およびウェルビーイングの視点から」藤田美幸、須賀由紀子、土屋薫
・「オンラインまちあるきにおける場所経験の形成　―参加者調査に基づく探索的分析―」土屋薫、須賀由紀子、藤田美幸
・「『地域学校協働活動の一体的推進』としてのまちあるきプログラムの研究」須賀由紀子、土屋薫、藤田美幸
地域活性学会第18回研究大会（茨木大学）

山田　裕史（国際文化学科・教授）
・（2026年7月10日）「カンボジアの政治動向と見通し：対外危機に直面する一族支配」ジェトロ・アジア経済研究所 オンライン講座【第3回】カンボジア・タイの政治動向と見通し：『アジア動向年報2026』 出版記念セミナー（オンライン）
・（2026年7月30日）「カンボジアとタイの国境紛争：停戦はなぜ正常化に至らないのか――人民党政権の視点から」笹川平和財団和平調停センター第3回定例研究会（笹川平和財団ビル）
・（2026年8月30日）パネル「2025年カンボジア・タイ国境紛争」第1報告「紛争の構造的要因と政治的波及：特殊詐欺問題をめぐる外圧と対外危機の内政利用」第20回日本カンボジア研究会（早稲田大学・戸山キャンパス）

3）競争的資金獲得研究

蔡　珂（国際文化学科・准教授）
・（2024年4月より継続～2028年3月）日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究「東アジア地域社会における近代教育の推進と伝統的基盤の比較研究」研究代表者

4）委員・社会的活動・記事・その他

今井　裕紀（経営学科・講師）
・（2026年4月1日より新規～2027年1月31日）新潟労働局公共調達監視委員会 委員
・（2026年9月5日・6日）産業・組織心理学会第41回大会実行委員会 委員

小宮山　智志（経営学科・准教授）
・（2026年4月28日より継続～2027年3月31日）中野小屋中学校学評議員
・（2026年4月30日より新規～2027年3月31日）小瀬小学校学校評議員
・（2026年5月26日より継続～2027年3月31日）赤塚小学校学校評議員
・（2026年7月28日より継続～2027年3月31日）新潟市総合計画2030有識者会議（都市の活力向上部会）部会長（新潟市役所）
・（2026年8月31日より継続～2027年3月31日）新潟市共同募金委員会西区分会推進委員（新潟西区役所）
・（2026年9月1日より継続～2027年3月31日）佐潟周辺自然環境保全連絡協議会 座長

藤田　美幸（経営学科・教授）
・（2026年8月より新規～）地域活性学会 北信越支部長
・（2026年9月より新規～）新潟県地方港湾審議会 委員

しごと研究セミナー

将来の就職活動に備え126名が参加



本学1・2年生を対象とした「しごと研究セミナー」が8月6日に、初めて開催されました。本セミナーは、学生が県内企業や業界への理解を深めるとともに、将来の就職活動に向けた意識の醸成を図ることを目的として実施したものです。

当日は、新潟県内企業30社が出展し、各ブースで業界や業務内容の説明、インターンシップに関する案内などが行われました。

学生「取り組む課題が見えた」

企業「早期周知のいい機会」

また、一部の企業では、本学の卒業生がリクルーターとして参加し、自身の経験を交えながら学生へ仕事内容や職場の魅力を伝える姿も見られました。

セミナーには126名の学生が参加し、各企業の説明に真剣な表情で耳を傾け、積極的に情報収集を行う様子がうかがえました。途中退席する学生も少なく、最後まで多くの参加者でにぎわい、初開催ながら盛況のうちに終了しました。

参加した学生からは、「様々な企業を知ることができ、今後取り組むべきことが明確になった」「自分に合う企業、合わない企業を知ることができた」などの感想が寄せられました。また、企業側からも「早い段階で企業を知ってもらう機会になった」「多くの学生と接することができ有意義だった」という声が聞かれました。

本セミナーは、学生のキャリア形成支援と県内企業の魅力発信の両面において有意義な機会となりました。

（キャリア支援課）

退職教員あいさつ



国際文化学科 教授　山田 裕史

2015年9月に本学で初めて専任教員の職を得て、生まれ育った新潟に戻ったときの喜びは今も忘れられません。在職中は、ゼミや国際交流ファシリテーター事業のほか、ゼミ生と立ち上げた国際協力・SDGsを推進する3つの公認団体でも、学生たちと共に学びました。本学の恵まれた研究環境のおかげで、専門のカンボジア研究を深めることもできました。また、新潟市とのSDGs推進連携事業や新潟県との「ゼロチャレ30士」など、自治体や企業との協働では、さまざまな立場の方々から多くを教わり、視野が広がりました。

教育、研究、地域連携に力を尽くしたこの11年1カ月に、悔いはありません。共に挑戦した学生たち、支えてくださった教職員と地域の皆様に感謝しています。10月からはジェトロ・アジア経済研究所に移り、カンボジア研究を通じて、平和で民主的な社会の実現を模索していきます。

表彰奨学金授与式



令和7年度に学業や課外活動において優れた成果を修めた学生をたたえる表彰奨学金の授与式が、7月14日に本校（みずき野キャンパス）で行われ、越智敏夫学長から証書と奨学金が授与されました＝写真＝。

表彰された学生は、学業成績優秀者が16名（国際文化学科7名、経営学科6名、情報システム学科3名）、課外活動功労者が3名（全日本パワーリフティング選手権大会出場者2名、全日本大学生中国語スピーチコンテスト全国大会出場者1名、様々な地域貢献で活躍した6つの団体・合計35名）で、学長からの激励に一層の活躍を誓っていました。

（学生委員会）

教員の活動（本人申告による）

1）研究論文・図書

今井　裕紀（経営学科・講師）

・（2026年9月）"Validation of the Japanese Version of the Subjective Underemployment Scale," Journal of Career Development, Sage（Advance online publication）

小林　伊織（国際文化学科・准教授）

・（2026年7月）「台湾の多言語政策の限界と可能性――復興運動の現場から」佐々木寛・吉澤文寿編著『コロニアリズムの再照射――「ローカル」に息づく〈私〉からはじめる』地平社（111～125頁）

蔡　珂（国際文化学科・准教授）

・（2026年5月）「明治前期近代教育の推進と地域社会の教員像 ―千葉県の培根社を中心に―」『千葉史学』千葉歴史学会 88号（29～49頁）

山田　裕史（国際文化学科・教授）

・（2026年5月）藤田麻衣共著「対外危機に直面する一族支配：2025年のカンボジア」『アジア動向年報 2026』日本貿易振興機構アジア経済研究所（225～244頁）

吉澤　文寿（国際文化学科・教授）

・（2026年3月）「第4章　日韓国交正常化交渉における植民地支配責任」外村大編『絡み合うアジア　和解・記憶・境界』東京大学出版会（71～87頁）
・（2026年5月）「第6章　韓国の市民運動　民主主義を支えるダイナミズム」長澤裕子編『ようこそ韓国・朝鮮世界へ』昭和堂（129～142頁）
・（2026年7月）「コメント1　今、戦争責任／植民地支配責任を考えるということ」佐々木寛・吉澤文寿編『コロニアリズムの再照射――「ローカル」に息づく〈私〉からはじめる』地平社（77～83頁）

2）学会・研究会・講演等

今井　裕紀（経営学科・講師）

・（2026年9月5日）「COVID-19パンデミック下における心理的ストレス反応の軌跡分析：公共団体職員5年間縦断的データをもとに」「多職種連携協働が看護師のワーク・エンゲイジメントに与える影響―心理的安全性の効果の日米間の違いに着目して―」産業・組織心理学会第41回大会（慶應義塾大学）

蔡　珂（国際文化学科・准教授）

・（2026年4月25日・26日）「清末民初の戯曲改良と通俗教育―南通更俗劇場を手がかりに」東京歴史科学研究会第60回大会（早稲田大学）
・（2026年5月17日）「明治前期近代教育の推進と地域社会の教員像―千葉県の培根社を中心に」千葉歴史学会第44回大会（千葉市生涯学習センター）
・（2026年6月20日）「渋沢栄一と福沢諭吉の道徳教育思想」渋沢研究会 第288回 シンポジウム「心豊かな社会づくりとそのネットワーク」（拓殖大学）

藤瀬　武彦（経営学科・教授）

・（2026年9月1日）「一般中高年女性及び中高年女性パワーリフターの身体的特性の比較」日本体育・スポーツ・健康学会第76回大会（北海道江別市・北翔大学）

藤田　美幸（経営学科・教授）

・（2026年6月27日・28日）「国際湿地都市周辺における広域住民の価値認識と持続可能な観光へ

海外実習

カナダ留学体験記

「そこでの出会いを大切に」

― 英語教授法を学んだ1カ月 ―

（国際文化学科　3年　平　要太）

私は8月15日から9月15日までの1カ月間、カナダのトロントにあるSt. George International College（SGIC）で教育実習を行いました。SGICでは、一般英語コースを始め、IELTS、ビジネス英語、英語教授法、医療英語など様々なコースが開設されています。日本、韓国、台湾、ブラジル、メキシコなど、多様な国や地域から学生が集まり、学んでいました。

私は将来、英語教師になるために必要な知識や技能を身に付けることを目的とし、英語教授法を実践的に学ぶi・TESOLコースを受講しました。TKT（Teaching Knowledge Test）の教材を用いて、教授法や文法の知識を学びました。さらにリーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの4技能を扱う模擬授業や教員の授業観察、評価方法の作成などを通して、英語教師に求められる知識や技能について理解を深めました。

カナダ教育実習を通して難しいと感じたことは、CLT（Communicative Language Teaching）を取り入れた授業を設計することです。実際の教材を用いて自分でレッスンプランニングを作成し、生徒同士のコミュニケーションを中心とした授業を行う中で、これまで日本で経験してきた授業スタイルとの違いを強く実感しました。また、専門的な内容を英語で学び、自身の英語のスピーキング力の不足にも気付きました。

勉強中心の1カ月でしたが、週末には現地でできた友人と夕日を見に行ったり、コース終了後には共にナイアガラの滝を観光したりするなど、充実したカナダ生活を送ることができました。これから留学を考えている後輩たちに向けて伝えたいことは「そこでの出会いを大切にすること」です。留学は新しい人々と出会う機会を増やし、様々な価値観に触れることで、視野を広げてくれます。しかし、留学中の時間は想像以上に早く過ぎます。だからこそ、出会った人々とのつながりや、その人たちと一緒に過ごす時間を大切にしてほしいと思います。



卒業式でi-TESOLコースのみんなと一緒に
（右から2番目が平さん）

保護者向け 学修・就職説明会

個別相談で教職員が対応

保護者を対象とした令和8年度「学修・就職説明会」を9月6日に本校（みずき野キャンパス）で、開催しました。

全学部全学科の1年次生から4年次生までの保護者を対象とした全体説明会では、学長のあいさつに続いて、教務委員会の教員が学修支援、キャリア支援委員会の教員が就職支援について説明を行いました。



全体説明会の後は「学部別説明会」、「学修個別相談会」、「就職個別相談会」、「学内見学会」の4つのプログラムを用意し、保護者が希望するプログラムに参加していただきました。

個別相談会では、学修に関わる内容については担当教員が、就職に関わる内容についてはキャリア支援課職員が相談に応じました。参加された保護者の皆さんには、大学生活における日ごろの学修状況や就職活動の心配な点について、一人ひとり個別に対応したことで安心していただけたことと思います。

学内見学では、在学生のキャンパスプレゼンターが学内施設を案内し、保護者の皆さんに大学生活における生の声を交えながら説明しました。

この説明会は、学生の皆さんが本学で充実した学生生活を送り、卒業後の進路への希望実現に向けて、入学時から学生生活やキャリア形成、就職に関するさまざまな支援を行っていることを保護者に知っていただくために欠かせない場と考え、毎年開催しております。来年度も同様に開催を予定しておりますので、是非ご参加くださるようお願い申し上げます。

（学務課）

ふるさと納税返礼品開発プロジェクト

ダイニチ工業・よつばフードとタイアップ

新潟の魅力を全国に発信

本学は産官学連携事業の一環として、新潟市のふるさと納税事業の支援サービスを提供しているレッドホースコーポレーション、並びに新潟市とともに、ふるさと納税返礼品の魅力向上に取り組むプロジェクト「N・tive（エヌティブ）」を2023年に立ち上げ、活動を続けています。

このプロジェクトは、ふるさと納税を通じて新潟市の魅力を全国に発信することを目的としています。3期目となる今年度は、「環境・SDGs」をテーマに掲げ、経営情報学部の学生5名が2チームに分かれて、ダイニチ工業（本社・新潟市南区）と、よつばフード（本社・新潟市西蒲区）が展開するふるさと納税返礼品をマーケティングし、その魅力を学生ならではの視点で発信していきます。

6月12日のキックオフを皮切りに、これまで計3回のミーティング（6月19日、7月15日）を行い、対象商品への理解を深めるとともに、ターゲット層の選定活動などを進めてきました。

また、8月には実際に各企業を訪問し、担当者から直接お話を伺ったことで、商品の魅力を再発見でき、具体的な発信方法を考える良い機会となりました。

学生からは、「より多くの方々に商品の魅力や生産者の思いが届くよう、効果的な発信方法を考えていきたい」と意気込みが語られました。今後は、新潟市長への成果報告を目指して活動を継続していきます。

（社会連携室）



ミーティングの様子

課外活動

「こども食堂」支援ボランティア

安心して過ごせる居場所

貴重な体験　卒業論文に反映

私たちはボランティアとして「こども食堂」の活動を始め、リューデゼミでも活動を応援していただき、ゼミ全体での参加や卒業研究にもつなげながら取り組んでいます。

「こども食堂」には、食に困る子どもが通う場所というイメージが根強く残っていますが、活動を通して食事の提供にとどまらない「こども食堂」の姿を実感してきました。実際には子どもたちが素の自分を出し、のびのびと過ごせる温かい居場所であり、食事の提供にとどまらず遊び場や学びの機会も提供しています。

活動では子どもたちに勉強を教えたり、一緒に遊んだり、料理の準備や片付けを行ったりしました。枝豆すくいやメダカすくいなど季節を感じるさまざまな遊びを楽しんだほか、子どもたちが主体となって料理をする際には、安全に活動できるよう見守りました。

一人でゲーム機に向かっていた子に寄り添い一緒に遊んでいたところ、元気な子が声をかけてくれて輪が広がり、最後はみんなで鬼ごっこをする心温まる出来事もありました。こどもたち自身が主体となって関係を築き、何度も交流を深めていく姿から、何度も大きな感動をもらいました。

こうした関わりの中で、私たちは声のかけ方や接し方など多くのことを学び、子どもたちの成長を間近で見守ることができ、私たちにとっても貴重な経験となりました。また、こども食堂が地域の人々とのつながりを生み出し、子どもたちにとって安心して過ごせる居場所となっていることも実感しました。

一方で、活動を継続するためには助成金や企業、農家などからの寄付による継続的な支援が欠かせないことも知り、活動を支える運営者の思いにも触れることができました。こうした現場での経験は、それぞれの卒業論文にも反映させており、ゼミで学んだことを社会で実践し、さらに学びを深める貴重な機会となりました。多くの方がこの活動に加わり、こども食堂の輪がさらに広がっていくことを願っています。

（小野夏子さんは今年5月から「こどもげんきごはん塾」で、伊藤優汰さんは昨年6月から「地球の子ども食堂」で、共に新潟市を中心に県内各地の「こども食堂」で活動しています）

（国際文化学科 4年　小野 夏子
同　伊藤 優汰）

日本語・日本文化研修



本学主催で初開催
―外国人12人が参加
多角的なプログラムを提供

本学では、6月27日から7月17日までの約3週間、18歳以上の外国人を対象にした「日本語・日本文化研修」を開催しました。本学初の試みとなったこの事業には、20代から70代までの12名が参加し、実践的な日本語能力の向上と日本文化・社会への理解を深めました。

日本語教育では、習熟度別の少人数制クラスを編成し、本学が依頼した外部講師がきめ細かく指導。日本文化研修では、そば打ちや茶道、座禅などの伝統文化に加え、新潟の伝統産業である酒蔵の見学や、自然を堪能する佐渡日帰りツアーなど、多角的に日本を理解するプログラムを提供しました。また、大学主催事業の特色を生かし、本学学生と交流する機会を設けました＝写真＝。

修了後のアンケートには、全員が「授業内容を理解できた」と回答。日本文化研修についても、プリクラや浴衣、居酒屋体験、新潟の食文化など、現代から伝統文化まで幅広い日本文化を楽しめたとの声や、「研修を通して日本と日本語がより好きになった」という感想も寄せられました。

修了式後は、関屋浜のレストランで先生方や世話役の学生たちと一緒にパーティーを開催し、次に会う日を約束して楽しい時間を過ごしました。

参加者が日本語・日本文化を学ぶことに加え、交流を通して参加者と本学学生が互いに異文化理解を深める貴重な機会となりました。今後も新潟ならではの自然や大学の独自性を生かした事業を拡充し、国際的な受け入れ事業のさらなる活性化を目指していきます。

（国際交流室）

クルーズ船通訳ボランティア

英語＋身振り手振りで観光案内

私たちNUIS TOURISM PROJECTの活動団体である新潟学生観光ボランティア団体NVOLAは、9月8日と15日に新潟東港に着岸したクルーズ船の乗客を対象に、通訳ボランティアとして活動しました。

主な活動は、東港の岸壁でのシャトルバスの案内やタクシーへの乗車補助、近隣の観光地案内、万代シティでの街案内や観光のサポートなどです。また、シャトルバスに同乗し、ガイドとして乗客に新潟の情報を紹介することもあります。

活動では主に英語を使用しますが、中国語や韓国語を使うこともあります。言葉が十分に通じない場合には、身振り手振りを交えたり、相手の話を聞き返したりしながら、正確な意思疎通を心掛けています。

私たちが大切にしていることは、乗客の方々が不便を感じることなく、新潟での観光を楽しめるようにサポートすることです。そのため、語学力だけではなく、事前に新潟の観光地や交通手段、目的地までの移動時間などを把握しておくことが必要です。

また笑顔で乗客を迎えることも重要だと感じています。私たち通訳ボランティアは、海外から訪れた乗客にとって、初めて接する新潟県民です。私たちの対応が新潟の第一印象につながることを意識し、言葉だけでなく笑顔や親切な対応を通して、新潟の魅力を伝えていきたいです。

（国際文化学科 3年　笹川 美晴）



スペクトラム・オブ・ザ・シーズ シャトルバス
チケットブースにて
（右端が笹川さん）













パンフレット

第33回 紅翔祭 爆ぜて、染まれ。爆彩

10月3・4日

今年も10月3日、4日の2日間、第33回紅翔祭を開催いたしました。

今回はこれまでにない新たな試みを数多く取り入れたため、無事に成功させられるか不安もありました。しかし、学務課や先輩方、担当長をはじめとする関係各所の皆様から多大なご支援をいただき、大勢のお客様にご来場いただく中で無事に幕を閉じることができました。

学食販売会では、昨年いただいたご要望にお応えし「お子様カレー」を追加しました。幅広い層の皆様にご賞味いただき、会場に笑顔があふれました。また、恒例のゲストイベントでは、お笑い芸人のゴー☆ジャス様と土佐兄弟様に会場を盛り上げていただき、活気あふれる紅翔祭となりました。

さらに、今回初の試みとして、ゴミ分別を円滑に行えるよう模擬店へ「エコ容器」を配布しました。出店者の皆様からも好評で、運営負担の軽減と環境配慮を両立できたことは、実行委員会としても大きな収穫でした。

また、例年二日目には使用していなかった野外ステージを活用し、新たにカラオケ大会を開催しました。当日は受付枠がすべて埋まるほどの盛況となり、子供から大人まで大勢の方に参加していただくことができました。今回の盛り上がりが、新たな目玉イベントへと育っていくことを確信しています。

今回の紅翔祭が、皆様にとって最高の思い出となり、「楽しかった」と心から感じていただけたなら、実行委員会としてこれ以上の喜びはありません。

最後になりますが、開催にあたり力を尽くしてくださった実行委員の仲間たち、ご協力いただいたすべての皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました

紅翔祭実行委員長
情報システム学科 3年 **長澤 幸輝**


環境に配慮したエコ容器









ワイナリー・カーブドッチ 創業者迎えセミナー開催 「どうせなら夢は大きく!」

第1回 地域連携委員会講演会

新潟県を代表するワイナリー・カーブドッチ（本社・新潟市西蒲区）の創業者をお迎えしたセミナーが7月29日、本校（みずき野キャンパス）で開催されました。

セミナーは地域連携委員会が主催したもので、講師にはワイナリーだけでなく、複合文化観光施設にまで発展した同社の創業者である代表取締役の掛川千恵子氏をお迎えしました。掛川氏は「カーブドッチの起業物語／変わるなら鮮やかに」と題して講演し、15年間子育てに専念していた専業主婦が、自己資金もないまま鎌倉から新潟市へ移り、角田浜にワイナリーを立ち上げるまでの軌跡を語りました。

掛川氏は、消費者目線でのコンサルティング会社を立ち上げて以降、鎌倉から新潟へ拠点を移し、ワインを基軸に複合的な事業を展開してきました。その間、コロナ禍を含め幾多の困難な時期を乗り越え、事業としての採算性を維持しながら、高品質の商品やサービスのほか、本とカフェ、コンサートなど、多様な文化活動の場も提供しています。

エネルギーと魅力あふれる掛川氏の「どうせなら夢は大きく！」という力強い言葉に、聴講した学生、教職員は大きな刺激を受けました。

（地域連携委員会）


講演する掛川氏



巻高等学校との高大連携事業

本学は、新潟県立巻高等学校との高大連携協定に基づき、9月に実施された「データサイエンスDAY」および「国際DAY」に協力し、講義やプログラムを通じて高校生の学びを支援しました。

高校生の学びを支援

データサイエンスの基礎からAIの仕組みまで
多様な国際的視点や異文化理解

データサイエンスDAY

9月8日に本校（みずき野キャンパス）で開催された「データサイエンスDAY」には、2年生約240名が参加しました。近山英輔教授（情報システム学科）が「真の世界を知るために～AIと対話の融合～」をテーマに講義を行い、データサイエンスの基礎からAIの仕組みまでを分かりやすく解説しました。講義では実践的な演習も取り入れ、生徒たちはAIを活用しながら学びを深めるとともに、データを活用して課題解決を図る重要性について理解を深めました。



「データサイエンスDAY」本校・大教室での講義の様子

参加した生徒からは、「データをグラフなどで可視化することで価値が高まることが分かった」「AIの回答を鵜呑みにせず、ファクトチェックや複数の情報を比較しながら判断することの大切さを学んだ」といった感想が寄せられました。また、大学キャンパスでの講義という普段とは異なる学習環境の中で、多くの生徒が意欲的に学ぶ姿が見られました。



「国際DAY」
巻高校での佐藤泰子講師の講義の様子

国際DAY

9月16日に巻高等学校で開催された「国際DAY」では、1年生約240名を対象に、国際理解を深めるプログラムが実施されました。本学からはリューデ・アンナ准教授と佐藤泰子講師が参加し、それぞれ「日露関係史のもう一つの顔：海を越えた〝意外な〟出会いの物語」、「English for Tourism」をテーマに講義を行いました。生徒たちは多様な国際的視点や異文化理解について学び、グローバル社会で求められる知識やコミュニケーション力について考える貴重な機会となりました。

（入試・広報課）

令和8（2026）年度 【2026年11月1日以降開講分】

後期公開講座のご案内

受講については電話またはWebサイトでお申し込みください。
新潟国際情報大学 社会連携センター TEL.025-227-7111
〈開館時間〉月～金 9:00～20:30／土 9:00～17:00 〈閉館日〉日曜、祝日、年末年始 他

Webサイトはこちら▶

	講座名	講師	開講日	開講時間
特別講座	ロッキード事件から50年 令和の視点で考える「田中角栄」	小田 敏三	11/27（金）全1回	18:30～20:00
特別講座	公益財団法人新潟市芸術文化振興財団提携講座 オーケストラ、この素晴らしき世界！～東京交響楽団・廣岡克隆楽団長に聞く～	廣岡 克隆、榎本 広樹	①3/13（土） ②14（日）全2回	①14:00～16:00 ②17:00～19:00
文化・教養	「日本人」との邂逅 ～アメリカの絵入り新聞は万延元年遣米使節をどのように報道したか～	鈴木 俊弘	12/12・19（土）全2回	13:00～14:30
文化・教養	多言語の世界5 台湾の多言語教育	小林 伊織	2/13・20、3/6（土）全3回	15:00～16:30
文化・教養	『北越雪譜』を読み解き、コミュニティの在り方を考える 【SKY】	海老田 大五朗	3/6（土）全1回	10:30～12:00
文化・教養	碓井真史の応用心理学入門 ～心理学はこんなに面白くて役に立つ～ 【SKY】	碓井 真史	11/27、12/4・11（金）全3回	19:00～20:30
文化・教養	“新潟古町”の現在（いま）地	金澤 李花子、上田 浩史、佐藤 隆広	2/20（土）全1回	10:30～12:00
文化・教養	北欧の日常から学ぶ暮らしかた	塚越 大助、佐藤 智香子	12/5（土）全1回	15:00～16:30
文化・教養	韓国ドラマから学ぶ韓国語	竹之内 一菜	1/30、2/13・27、3/13・27（土）全5回	13:30～15:00
文化・教養	新潟における伝統的木綿染織の成立と発展 ～片貝木綿と民藝の関わりについて～【SKY】	小出 真理子	12/2（水）全1回	10:00～11:30
文化・教養	お屋敷町としての西大畑町を中心とした地域の歴史とまちあるき 【SKY】	菅原 邦生	12/5（土）全1回	9:30～16:30 ※
文化・教養	古寺に伝わる仏像と役割について	横山 秀樹	11/28、12/5・12・19（土）全4回	10:00～11:30
文化・教養	青陵ホールでベートーヴェンを聴こう！第2弾 ～ピアノソナタ『悲愴』～ 【SKY】	栄長 敬子	3/9（火）全1回	14:00～15:30
ビジネス	身近な企業はなぜ生き残るのか ～老舗・長寿企業の知恵に学ぶ市場創造と競争戦略～	髙井　透	11/18、12/2（水）全2回	18:30～20:00
ビジネス	インデックス運用の魅力	田村 純也	1/23（土）全1回	13:30～15:00
ビジネス	経験を価値に変える2日間 ～自分らしい役割を見つける～	小松 弘美	①11/14（土） ②3/6（土）全2回	①13:00～17:00 ②13:00～16:00
ビジネス	対話を深めるコミュニケーション ～伝えるから、伝わり合うへ～	菊野 麻子	12/2・9（水）全2回	18:45～20:45
ビジネス	【実践力UP】Excel応用	岩野 弥佐子	12/5・12・19（土） 全3回	10:00～15:00 ※
ビジネス	【仕事効率UP】Excel関数テクニック	岩野 弥佐子	1/9・23・30（土）全3回	10:00～15:00 ※

【SKY】は新潟青陵大学、新潟青陵大学短期大学部、新潟国際情報大学、新潟薬科大学及び新潟工業短期大学が相互に連携する事業「SKY プロジェクト」の一環として、公開講座を開講するものです。 ※12:00～13:00 休憩

NUIS TOURISM PROJECT
「国際学会 ICoME 2026」で発表
― 学生が新潟と世界をつなぐ ―

8月6日から8日まで、米国ハワイ州ホノルルのUniversity of Hawai'i at Manoaで開催された国際学会「ICoME 2026（国際教育メディア学会）」に、本学学生団体「NUIS TOURISM PROJECT」の学生7名が参加し、研究発表を行いました。ICoMEは、日本・中国・米国の教育メディア・教育工学分野の学会・団体が連携して開催する国際学会で、研究者や教育関係者、学生が国境を越えて研究成果を共有する学術交流の場です。

本学からは、国際文化学科4年の伊藤佐由貴さん、川又侑里さん、村田かのんさん、3年の小林歩寛さん、笹川美晴さん、平要太さん、宮内優希さんが登壇し、「Toward a Scalable Education-Tourism Model」をテーマに発表しました。発表では、5年間にわたる地域観光の情報発信、自治体や観光関係団体との連携、留学生との国際交流、新潟学生観光ボランティア団体「NVOLA」の活動などを紹介しました。



参加者による集合写真（本チーム後方左側）

また、観光を人と人、教育と地域社会、新潟と世界をつなぐ学びの場として捉え、学生主体による「教育×観光」モデルの可能性を提案しました。今回の経験は、学生たちが日頃の学修や地域での実践成果を英語で発信し、各国の研究者や学生と交流する貴重な機会となりました。発表の様子は開催校であるハワイ大学教育学部の情報媒体にも掲載され、新潟で培ってきた学生主体の取り組みを海外へ発信する機会となりました。

（国際文化学科 講師　佐藤 泰子）

JCREES スラブ・ユーラシア研究サマースクール
発表を通して大きく成長
新たな知見や出会いを得られた有意義な場



この度、8月27日から2日間の日程で、北海道大学にて開催されたJCREESスラブ・ユーラシア研究サマースクール2026に参加しました。このサマースクールでは、今後卒業論文の執筆に取り組むことを見据え、他分野の学びや東欧・ユーラシア各地域への理解を深めることができました。

私は本学でロシア語を学び、ロシアや旧ソ連地域に関心を持ったことから、昨年4か月間留学したバルト三国のラトビアをテーマに卒業論文作成を進めています。そうした活動の一環として先生方から勧めていただき、参加する機会を得ました。今回は留学先であったラトビア・ダウガフピルスに関する発表を行うと感じています。

スラブ・ユーラシア地域研究は、東欧諸国から極東、中央アジアに至るまでの多様な地域を対象としています。こうした領域を専門とするさまざまな分野の研究者や学生が集うサマースクールは、新たな知見や出会いを得られる大変有意義な場でした。このサマースクールが今後も継続し、より多くの本学学生が参加することを願っています。

また、自身のテーマについて大勢の前で報告する初めての経験となりました。参加者の皆様からいただいた質問は、自分の考えを見直し、改めて整理するきっかけとなり、大きな刺激を受けました。また、この発表を通じて大きく成長できたと感じています。最後に、JCREESスラブ・ユーラシア研究サマースクール2026の関係者の皆様、そして推薦とご指導をいただいた先生方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

（国際文化学科 3年　片山 透）

学生視点で大学の魅力発信！「学生広報チーム」が始動


右から田中優杏さん、太田美結さん、宮嶋紗希さん

今年度より、学生視点での新たな魅力発信を目的とした「学生広報チーム」が発足しました。

今回集まったのは、学科や学年の枠を超えた意欲あふれる8名の学生たちです。メンバーはそれぞれの専門分野や独自の視点を活かし、SNSを通じて「学生のリアルな日常」を届ける活動を行っています。

主な活動の舞台は高校生に人気のInstagramです。これまでの大学公式発信に加え、学生ならではの感性で企画・撮影・編集までを手がけています。「講義やゼミでの学び」や「留学体験談」といったアカデミックな内容から、「部活動の密着取材」など、自由な発想でコンテンツを配信中です。

活動にあたっては、毎月の定例会議で振り返りを行いながら、より伝わる表現を追求しています。

メンバーの一人、国際文化学科4年の田中優杏さんは「自分たちの手で大学の魅力を世の中に広めたい」という熱意を持って取り組んでいます。学内で取材や撮影を行っている姿を見かけた際は、ぜひ温かい応援をよろしくお願いいたします。また、メンバーが作り出すInstagramの投稿も、ぜひチェックしてみてください。

（入試・広報課）

Instagram
公式アカウント